

令和2年度 第2回奈良市における中高一貫教育に係る懇話会の意見の概要	
開催日時	令和3年 2月4日(木) 午前10時から12時まで
開催場所	奈良市役所 中央棟6階 正庁
議題 又は 案件	1 (仮称) 奈良市立一条高等学校附属中学校から高校への接続について 2 (仮称) 奈良市立一条高等学校附属中学校の特色ある教育課程について
参加者	出席者4人 (重松敬一、岡本充智、越野泰徳、藤原素子) 事務局 9人
開催形態	公開(傍聴人 0人)及び一部非公開
担当課	教育部 教育政策課
意見等の内容の取り纏め	
<p>1 (仮称) 奈良市立一条高等学校附属中学校から高校への接続方法について</p> <p>事務局より、(仮称) 奈良市立一条高等学校附属中学校から高校への接続について説明。出席者から以下のような意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学からの内進生と外進生のそれぞれの文化、アイデンティティを互いに刺激し合うという意味では、完全に混ぜるという訳ではなく、それぞれのクラスに居ながら、高校でどう刺激し合えるかが大切だと思う。 ・ ミックスにしないことによるデメリットを高校で刺激し合いながらカバーしていければと思う。 ・ 南陽高校では、ガリレオというチームを作り、普通科の生徒、専門学科の生徒、中高一貫の生徒が混ざり合い、難関大学進学を目指して、その中で、自分たちで問題を出し合ったりしながら学科やコースを横断した教育活動を行っていた。 ・ 部活動や選択授業等の仕掛けをしていけば、交流も進むと思う。 ・ 高校の活性化は重要なキーワードであると思う。インクルーシブという観点。色んな選択肢を与えるということも大切だと思う。内進生、外進生、両方に選択肢を与えることが望ましい。 ・ 附属中学校でやっている取組をオンラインで公開していくことで、一条の魅力が伝わり、高校から入学してくる生徒たちは準備をして入ってきてくれるのではないかと。 <p>2 (仮称) 奈良市立一条高等学校附属中学校の特色ある教育課程について</p> <p>事務局より、(仮称) 奈良市立一条高等学校附属中学校の特色ある教育課程について説明。出席者から以下のような意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間企業と連携することはとても大きなことだと思う。 ・ 開校前年に色々と企業と連携をとろうとしたが、なかなか受け入れてくれなかった。 	

見学はさせてもらえるが、技術的な話になるとどうしても見せてもらえない。イベント等で生徒に司会をさせる等、色々と工夫をすることでようやく企業と連携がもてるようになってきた。

- ・海外大学への進学も視野に入れているようだが、そのためのロードマップ的なものも必要であると思う。今の資料では少しイメージしづらいと思う。
- ・大学生でも、英語で話すとなると身構える生徒は多くいる。海外との接点をもつことは、非常に良い取組だと思う。
- ・企業との繋がりはとても良い事だと思う。また、奈良を守るということが一つテーマになると思う。奈良にも様々な課題があると思うので、そういった課題を解決していくことに中学校を作るという意義もあると思う。
- ・将来的には、海外の高校との単位交換ができれば面白いと思う。海外は当たり前だという意識で進めていく必要がある。
- ・奈良教育大学附属中学校の生徒たちは大学の研究室に訪問している。高校生の訪問は増えてきているが、中学生のそういった取組は自分たちの将来のイメージをもたせること、自分たちの学びがつながっていくイメージをもたせるという意味で大切。

3 (仮称) 奈良市立一条高等学校附属中学校の適性検査について

公開前の情報に関する案件であるため非公開により協議した。